

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.03) 平成23年度:134.

手術前日入院の患者が手術室看護師の術前オリエンテーションで必要としている情報の調査

清水目悠花、小木曾謙太

手術前日入院の患者が手術室看護師の術前オリエンテーションで必要としている情報の調査

手術部ナースステーション 清水日悠花、小木曾謙太

I. はじめに

入院期間の短縮化が進み、手術前日入院の患者が増加している。患者は忙しく、情報を整理できないと感じ、私たちは患者が必要としている情報を中心とした提供が必要ではないかと考えた。そこで術前訪問時に必要としていた情報を調査したので報告する。

II. 研究方法

1. 研究期間：2010年9月～同年11月
2. 研究対象：全身麻酔下手術を受ける予定で手術前日入院した患者15名。
3. 研究方法：術前オリエンテーションをA病院作成のファイルとパンフレットを用いて実施。終了後、当日のタイムスケジュールを用紙に記入する。術後2～3日目に用紙の結果を基に、アンケートを用いて当日の時間経過、説明に対してどう感じたかをインタビューする。

III. 倫理的配慮

文書及び口頭で研究目的・方法を説明し同意を得た。研究参加は自由に意思決定し、いつでも途中で止めることができ、不利益は無いことを説明した。

IV. 結果

1. タイムスケジュール集計の結果、平均で全体の2.5割を[説明・手続き]、1割を[検査・処置]、2割弱を食事や入浴などの[生活]に時間を要していた。忙しいと感じたか否かではどの項目も10分前後の違いは見られなかった。

2. 患者の属性は男性4名、女性11名、平均年齢53.3歳であった。また忙しいと感じなかった患者の7割が職業か手術経験を有していた。
3. 術前訪問時に必要としていた情報をカテゴリー別に分類した。発言が得られたのは9名であった。カテゴリーは【手術室入室から退室まで】【麻酔】【皮膚・神経損傷予防対策】が抽出された。

V. 考察

1. 手術前日を忙しいと感じなかった患者が15名中10名おり、手術前日に忙しさを感じない患者もいることがわかった。職業を有する患者は普段から多くの予定をこなすことに慣れていること、また手術経験のある患者は過去の経験から手術前日の状況をおおよそ理解していることで、忙しいとは感じなかった患者が多かったと考える。
2. 忙しいと感じたか否かで必要とする情報の内容に大きな違いはなく、手術前日が忙しかったため情報を整理できないとは必ずしも言えない。得られたカテゴリーが抽出された理由は意識下で体験し、強く印象に残ったことが考えられる。

VI. まとめ

1. 手術前日入院の患者は必ずしも手術前日に忙しさを感じてはいないとわかった。
2. 手術前日入院の患者は意識下で体験することについての情報を必要としている傾向がみられた。